畑の学校　閉校式

１１月１３日（土）に今年の農業体験コースに参加された皆さんが、畑で里芋の収穫と、一年間のまとめの閉校式を農協研修センターにて行いました。閉校式ではこの一年間の作業をスライドで振り返り、今までの作業をクイズ形式で楽しみ、鈴木亜夕帆氏（ちば食育応援隊）による「ライフステージ別の食育のポイント」の講演と、田辺たか子・佐久間信子さん（千葉県食育ボランティア）両氏の指導により、畑で採れた里芋・大根・人参で芋煮とおにぎりを作っていただき、皆さんで美味しそうに食べながら閉校式を楽しみしました。

昨年の「畑の学校」は作物を育てる楽しさと、土に親しんでもらう、月に１回程度の農作業をして貰う農業体験コースに、２０組のご家族に参加して頂きました。初めての事で中々上手く運ばないこともありましたが、今年の夏は猛暑という事もあり自然の驚異を感じる事もできました。この畑の学校を充実させながら私達、素人集団も一緒に学び八千代の自然を大いに楽しんで行きたいと思います。今年も多くの方々に参加して貰い、土いじりや収穫の楽しさを体験して頂ける様、更に充実した「畑の学校」にしていきたいと、スタッフ一同頑張りますのでご支援下さい。　（金室）

▲美味しく出来ました

▲忘れないようにメモはしっかり

編集後記

2011 年がスタートしました。
今年も様々な活動から子ども達の笑顔があふれる光景がたくさん見られることを願います。
花輪川が子どもと大人が関わる拠点となるよう、社会資源として守っていく必要がありますね。（ＴＡＮＡ－Ｊ）

発行責任者：川瀬　純一
事務局＆問合せ：小原　　翔
☎：047-450-4663
mail：info@yachiyo-oikos.jp

～～よみがえれ花輪川～～

八千代オイコス かわら版

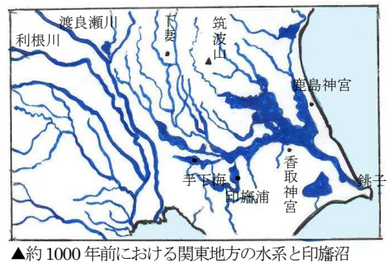
第 16 号

平成 23 年 1 月 15 日発行
NPO 法人八千代オイコス
http://www.yachiyo-oikos.jp/

印旛沼のあれこれ　**第3話「徳川幕府の利根川水系河道変更事業」**

印旛沼は万葉集の中で「香取の海」と詠われ、現在の霞ケ浦、北浦、牛久沼、手賀沼、そして千葉県の水郷一帯を一つにした水域の一角にすぎず、周辺の貝塚から、バカ貝、ハマグリ、マガキ、タマキ貝、などが発掘され、水の性状は現在の様に淡水でなく、海水が混じった汽水であったと考えられている。

その後、「香取の海」は土砂等の堆積や、海退によって徐々に陸化し、縮小して湖沼化していったが、この湖沼化が決定的になったのは１５９０年（天正１８年）、徳川家康の江戸入府に伴って本格的に行った「利根川東遷都事業」である。これは、江戸を水害から守る事や、新田開発による農業の安定化を図り、東北地方他からの物資を運ぶ為の水運(船運)ルートの整備などを目的とし、関東平野の中央部を流れる利根川水系の流れを銚子の方向に向かわせるようにする河道変更の事業である。（この目的については解釈がいろいろとあり、明確でない部分もある）



▲約 1000 年前における関東地方の水系と印旛沼

▼利根川の流れを変える大工事（利根川東遷）

しかし、その結果利根川の氾濫の為に、水が印旛沼に逆流し多大な洪水被害をもたらす事に成り、昭和初期の「印旛沼開発事業」の完成をみるまでまさに水害（洪水）とその防止のための開発の歴史であったと言える。

江戸時代にほぼ６０年おきに大規模な開発工事が三度行われた。

工事は基本的には何れも下総国平戸村（八千代市平戸）～検見川村（花見川区検見川）の海岸までを水路で結び、印旛沼の水を江戸湾（東京湾）に落とし、水害防止と新田開発及び海運の整備を図ろうとするものであったが、享保９年（１７２４年）平戸村の名主、染谷源右衛門が行った工事を初め、何れもことごとく失敗に終わったのである。

（資料：八千代市立郷土博物館冊子より）

▲房総の水運

―以下次号―

オイコス恒例の餅つき会開催　～もち米は手作りの「オイコス米」で～

恒例のオイコス餅つき会を平成 22 年の暮れも押し詰まった 12 月 26 日（日）に行いました。

前日に「臼、きね」の水洗い、かまど、七輪等の準備、17 臼分のもち米約 36ｋｇの米とぎを済ませました。当日は風も無く穏やかな晴れ空の下､新川河畔の知人宅庭先で子どもをまじえて 20 人を超えるメンバーが揃い、朝から賑やかに始まりました。

▼今年も張り切って

▲良く育ちますように（田植え）

今回の餅つき用米は、神久保（いものくぼ）に 3 分の 1 反程の田んぼを借りて､5 月 3 日に 10 人のメンバーで田植えを行い、育ててきた米で文字どおり手作りの「オイコス米」です。

米作りは乾いた田の土を耕す「田起こし」から「代掻き（しろかき）」（田に水を入れて土を細かく砕いて掻きならすこと）､「田植え」､「稲刈り」､「乾燥」と、かつては大変な重労働も機械化され作業のみで言えば随分楽な農作業となりました。（オイコスは全て手作業）

▼子ども達もがんばります

オイコス恒例餅つき会も 4 回目となり､慣れた手順で作業は進められますが､米の蒸し時間や杵で最初にこねる状態が餅の良し悪しに微妙に影響し難しいものです。

搗き上がった餅は女性群の手で素早く､ひと口で食べられる大きさに丸められ「あんこ餅」「納豆餅」「大根おろし餅」と加工され、その場で夫々食べる味は最高です。

皆のお腹が十分満たされたところで、参加者持ち帰り用に約 2 升（2.8 ㌔）の餅を男性交替で搗き上げてゆくのですが、十分なこねを加えて打って行く作業は大変な重労働です。

しかし昔からの日本の暮れの風物詩の「餅つき」を我々の手で行う事で伝統行事を固持する喜びと、オイコスのチームワークが強くなることを確信して今後も続けて行きたいものです。

年末から旨いモチを食べ、新年には「おとそとモチ」が続いては体重増が心配です。

皆さんお疲れ様でした。（川瀬）

▼刈り取りも楽しく

▼天日干しのハザ架け旨く出来ました

サポセン「こんにち　わ　ふれあい祭り」に参加

▲今回のポスターです

平成 22 年 11 月 23 日(日)、市民活動サポートセンター祭りが開催されました。

イオン八千代緑が丘店での開催は今回で 3 回目となりました。参加した市民活動団体は 17 団体でした。アゼリア広場の舞台を撤去し、ローズ広場と両方の展示スペースが提供され各団体は十分な展示スペースを確保することが出来ましたので、オイコススタッフも大変力が入り、アゼリア広場にて展示と竹炭、竹酢液の販売を行いました。

小さい袋の竹炭や竹酢液ばかりではなく、太い飾り竹炭も良く売れ、総売上は 1 万円を超え、大商いとなりました。ブースに訪れるお客も多く、川の学校やホタルマップに質問が集中しました。チラシやパンフレットを持ちかえる人たちも多く見られ、オイコスの良い宣伝になった有意義で楽しい 1 日でした。（小原）

▼沢山売れました

昨年夏休みの「川の学校」後日談

▼川の学校

昨年夏休みに開校された「川の学校」は、二つの取材がありました。

一つは j:com（わいわいテレビ）の取材があり 8 月後半に放映されました。

もう一つは千葉県内にある高校の放送部の女子学生が放送コンクールに出展するために取材に来たものでしたが、その後、千葉県コンクールで優秀賞に選ばれ､今年の夏には全国大会に出場が決まったとの知らせを受けました。全国大会の結果が楽しみです、頑張って下さい。

さらに「川の学校」の助成先のライオン㈱からテレビＣＭの中で「川の学校」の写真を放映したいとの申し出でがありました。期待して見ていたら、番組最後のＣＭにちらりとほんの 1 秒程度確かに放映されました。また同社から「提供される試供品の包装ケースに同一の写真を添付したい。」との申し出がありました。我々の活動が多くの人たちの目に触れる機会が多くなることは喜ばしいことです。　（小原）

今年度中のオイコスの活動予定

☆1 月 21 日（金）印旛沼環境基金助成事業成果発表会
北総県民センター　9:30～
☆3 月 27 日（日）菜の花エコウォーキング
☆4 月 10 日（日）平成 22 年度総会
ＪＡ研修センター　13:00～

▼春の花輪川